

JEC関連 掲載記事

2024.6~2025.5

北日本新聞 2024.6.11

深層水塩ラーメンいかが



滑川 滑川高校商業科の生徒が考案した滑川海洋深層水塩ラーメンの販売促進イベントが9日、北陸自動車道有磯海サービスエリア（S・A）・上り線（滑川市栗山）であった。ミネラル分が豊富で、白エビ風味のスープとモチリした麺が特徴で、3年生5人が来店客に魅力をPRした。

塩ラーメンは地域資源の活用を目指し、2020年度に同校商業科の当時の2年生が考

塩ラーメンの試食品を配り、魅力をPRする生徒

滑川高生 有磯海SAでPR

案。滑川沖の海洋深層水から作った塩をスープや麺に使った商品で、21年2月から同SAの土産店やフードコートで販売してきた。同市のほたるいミュージアムなどにも並べ、これまで4万6000食を売り上げている。

イベントは今後の販売実習に向けた接客の練習と、商品の知名度向上を目指して行い、約30食分が売れた。伊東大樹さん（17）は「初めての販売実習で分からないことも多かったが、商品を買ってくれる人がいてうれしかった」と話した。

北日本新聞 2024年6月12日(水)掲載



ホクリクプラスは202

北陸発信拠点のユニホーム決定
ゴールドウィン製採用
北陸新幹線の教習延伸を踏まえ、北陸3県が大阪府内に整備する「富山・石川・福井情報発信拠点HOKURIKU+（ホクリクプラス）」で、スタッフが着用するユニホームに写真と名札が決まった。県が10日発表した。

5年開催の大阪・関西万博や北陸新幹線の大阪延伸を見据え、7月31日、大阪駅近くの複合ビル内にオープンする。3県の特産、工芸品を扱う物販スペースのほか、地酒やつまみを楽しめるスタンディングバー、3県共同のイベントスペースなどを設ける。

ユニホームはゴールドウ

イン（本店・小矢部市）が

展開するブランドのシャツ

とスラックスを採用。スラ

ックスは黒色、シャツは紺

色で、背中側に「ホクリク

プラス」のロゴを刺しゅう

する。名札には各県産材の

端材を活用する。

うまいもん
ひだ

健康的な伝統食 手軽に

定食で脇役に甘んじがちな料理が、主人公へと躍り出た。メインの揚げ物の中身は、まさかの漬物。さっぱりとした酸味のある高山市高根町日和田地区の伝統発酵食品「す

な」に、こってりと甘い牛すじを加え、パリッとした食感の春巻きの皮で包んだ。

「すな」は湯がいた赤カブを乳酸発酵させて作る。味は豊富なうま

高根の七峰館「すなの春巻き定食」

すなの酸味が引き立つ春
巻き。高山市高根町で



成分によるもので、塩は一切使わない。血圧を下げる効果が期待できるアミノ酸「ギャバ」も多く含み、近年は健康食材としても注目を集める。

春巻きは、そんな地域の伝統食材をもっと手軽に食べられるようにと考えていた山口雅治料理長（60）が発案。半日以上かけて煮た牛すじに「すな」を足してさらに煮込み、春雨とニンジン、シイタケを加える。

同じく牛すじと「すな」を具にした「おやき」も付く定食は、2年ほど前から提供。メインは、牛肉のしぐれ煮と「すな」を混ぜて包む揚げ餃子とを定期的に入れ替える。山口料理長は「乳酸菌が入っているので腸の状態も整う。食べに足を運んでもらえれば」。

◇

塩沢温泉 七峰館「すなの春巻き定食1200円（ランチのみで、前日までに事前予約が必要）▽高山市高根町上ヶ洞290▽午前11時～午後2時。水曜日定休▽0577（59）2328

（平田志苑）

「あゝ野麦峠」再上映

高山市高根町と長野県境の野麦峠（標高1072m）が舞台となった映画「あゝ野麦峠」が、岐阜市で出町のロイヤル劇場で20、26日に上映される。柳ヶ瀬の再上映は13年ぶり。高山野麦の野麦峠を訪ねた小唄では、この機会に合わせ台本や出演者のサイン色紙など映画化の資料約40点の展示が始まった。展示は11月上旬まで。

映画は山本嘉次郎作、山本薩夫監督で1999年に公開された。明治時代、製糸工場へ出稼に行った病弱の少女たちを導き、峠越えのシーンでは、旧高根町民もエキストラ出演などで大勢が関わった。

映画のフィルムは所在が不明だったため、幻のフィルムとされていたが、2011年（ろ、仙台市の個人が所有）

柳ヶ瀬で13年ぶり、あすから

高山・高根町では台本や色紙展示



高山市高根町で今年、東宝にフィルム管理が委託されたことから、再上映が実現した。

岐阜市高根町商店街振興組合連合会（柳ヶ瀬）と高根町の飛騨高根観光協会は岐阜新聞の連載企画で、映画再上映を

映画のワシンの等身大の台本と貴重な資料が並ぶ会場。高山市高根町野麦、野麦峠を訪ねた小唄

機に2013年に「縁結び協定」を締結、1700離れた岡地域は現在も交流が続いている。

展示は小唄を運営するジェック経営コンサルtant主催。映画のボスターや関係者のサイン色紙、映画のワシンの写真のほかオアショットも並ぶ。展示品は元岐阜県宝友配人八代嘉吉さんから高山市に寄贈されたもので、22年に閉館となった資料館「野麦峠の館」に保管されていたものを持ち出した。

お助け小唄の管理人小澤米光さん（75）は「2011年に柳ヶ瀬で映画が再上映された時は、野麦峠まで来てくれるお客さんが増えた」と振り返り、再上映を喜び、岐阜市と地産の企画本部長岡合資さん（69）は「映画館は商店街にとって百貨店と並ぶ大きな存在。文化の火を消さないで頑張りたい」と思いを語る。

問い合わせはシネックス、電話058-264-7115（市原町子）

うなづく味 温泉ウナギ

24日の「土用の丑」を前にウナギが各地で売り出される中、黒部市内では、宇奈月温泉の温泉水を使って今年商品化された「うなづく」のかば焼きが提供されている。

「国産の養殖ウナギを冷ました温泉水

黒部 かば焼き提供 きょう土用の丑

で1週間育て、試験では身がやわらかくなる結果が得られた。

同市生地芦崎の飲食店「北洋の館」では23日、常連客らが炭火焼きを味わい、笑顔を見せた。バック売りの冷凍品もあり、同店のほか、魚の駅生地や道の駅KOKOくらべて販売している。



31日開業 ホクリクプラス

来月水見応援フェア

大阪駅西口

県は、北陸3県の情報発信拠点として大阪市内に設けるアンテナショップ「HOKURIKU+（ホクリクプラス）」で、8月17、23日に水見復興応援フェアを開く。8月中には能登復興応援フェアも開催される。相乗効果で北陸の知名度を高め、関西圏からの誘客につなげる。新田知事が24日の定例会見で説明した。

水見のフェア期間中は、市内の水産加工品や地酒などを販売し、観光の魅力をPRする。17、18の両日は、

水見うどんの試食や地酒の試飲コーナーも設ける。

HOKURIKU+は、北陸新幹線敦賀延伸開業や2025年の大阪・関西万博を見据え、3県が7月31日、大阪駅西口に開業する商業施設KITTE大阪2階2階でオープンする。3県の特産品や工芸品を販売。地酒やつまみを味わえるスタンディングバー、3県共同のイベントスペースも設ける。

知事は会見で、31日に現地で開かれるオープニングイベントに出席することを説明。北陸新幹線開業で人の往来やビジネスの面で東京一極集中が加速しているとし、関西とのつながりを強めていきたいと話した。

ホクリクプラスのイメージ



2024年8月1日(木)北日本新聞

黒部の食堪能 オムカレー



「ふわふわKOKOくろオムカレー」を紹介する宮崎
駅長（後列中央）と惣店長（同右）、食材を提供した
出店者の代表者ら

KOKOくらべ

地元産米や卵使用

道の駅KOKOROへ、黒部市制の日に開いている飲食店「ファミリーキッチン」が、地元食材たっぷりで使ったムスメカレーを考案した。道の駅に出荷している事業者や、ふくむと協力。黒部産のやまと、黒部名水ホクダクの水などを使用し、黒部の食を堪能できる一品としてアピールしている。

（吉岡美奈）

出店者らコラボ

「K.O.」は「オカリー」を誤変した。
オムカリーには「直落所」で誤っている。馬鹿米のオムカリーをオカリー（岡本米）の別を言う。K.O.はオムカリーにある。標記大原の事らしい。むしむし、とよこさんや、くさべの菊、田中五郎が、名産の丸もどき無印米、オムカリー、オムカリー、オムカリーを作った。口づけを添える。

夏、固定販売している。税込100円。寄贈夏祭り。一は「幅広い世代に楽しんでもらえる一品。今後は無印の、若い人、大衆的な、若者に、取り組みたい」と話している。

2024年8月1日(木)北日本新聞



大阪 ホクリクプラス開業

食や工芸 関西に発信

北陸3県が連携して魅力ある観光地を創造する「ア・テナシ」プロジェクトの中心に、ホリウツブラス（株）が3日、K R T E 大坂近郊の商業施設内において、キタエの大規模な展示会を開催した。同展示会は、食や工芸品などをテーマにした、関西圏からの顧客が多くなる。

北陸新幹線の教習開業ととも、将来的な大阪延伸により、2025年の大阪・関西万博を見据え、3県の情報交換拠点として設けたこの日開幕したK R T E 大阪駅の附屬あり、店舗面積は240平方メートル、輪島塗、越前漆器など3県の特産品や工芸品を販売する。地産地消を促進するスチールディングバーも設けられ、内装には各県の県産材を使用し、外国客には英語ならぬ英語コンシェルジュが対応する。

現地で記念式典が開かれ、市川副知事は「北陸に足を運ぶのもいいたい」と

鶴岡石川両知事は「今後も杉本建設が頑張ってください」「インバウンド、訪日客にも北陸の魅力を伝えたい」とそれぞれ多岐にわたるコメントを発表した。

開店から多くの客でぎわった。奈良興生商店の主婦八田厚子さん78は「たまたまの商品も見せて楽しかった」と笑顔を見せた。8月上旬に旅行先数十年前より富山を訪れる「機会があれば何處でも行きたい」と話した。

2024年8月6日(火)北日本新聞

北陸広域観光へ連携

富山・石川知事と黒部で意見交換



北陸での広域観光振興について意見を交わす
出席者＝黒部市芸術創造センター・セレネ

新田村と磐石川、川原
事、嵐山俱樂部のむすむ村
長による意見交換会がら
た。知事本人が出席して知
策に取り組み、その感の込
んだ人口減少に関する緊急
宣言を巡っては、小池百合
子東京都知事が文芸春秋論
を叫ぶなど、1日に予定し
たに際した見送り、2日
に都の意見を調子よく形
で取りまとめた。

知事は就任後、小池にわた
り、夏の会合に参加して交
た。夕食時の情報交換を含
め、とても有意義な時間な
ったと振り返った。小池
氏から輿論が出たことに
には、必ずしも全一一致
にたらないことはある。議
論すべき所は議論し、力を
合わせるべき所は合わせ
る」と強調した。

それゆゑに名前に「田原」が付く駅が誕生した。ところが、各地の周遊チケットや旅行商品の造成を提案、田原鐵道の立山部長は、訪日客が多く訪れる立山や白山の登山環境整備に向け、国に財政確保を求めるよう呼びかけた。

■新田原事はホクリクブラスの来場者数に触れ「華生よ、よ、かなりの方にお越しいただいた」と述べた。

光復進に連携して取り組むことで一致。7月末に大阪府内にオープンした北陸3県の情報発信拠点、且O.K.R・K.R.「ホクリクプラズ」は、開業から5日間で約4万8千人が来場したことも報告された。

北陸での多分野にわたる広域連携に向けた一冊の見える関係づくりを目指し、輪知事の提案で開催。9市町村が各社の観光資源について紹介した。

武蔵野、黒田市長は、北

知事は10月に始まる大改訂光企画「北陸デスティネーションキャンペーン」と、3県の並行在来線の連携企画を改めて紹介し「相乗効果を図り、観光需要を取り込みたい」と語った。

2024年8月24日(土) 北日本新聞

北陸3県知事 北経連と福井で懇談



北陸新幹線を活用した観光振興などを話し合った（左から）新田、村本、畠の3氏＝福井市内のホクリク

ホクリクプラス活用強化
情報発信 延伸効果高める

福井、福井の北陸3県知事は23日、福井市内ホクリクで北経連と懇談し、北陸新幹線の延伸効果を生かすため、情報発信の強化を図ることで一致した。太田内子（ふたお）知事は、延伸効果を生かすため、情報発信の強化を図ることで一致した。

学生定着へ企業説明会

ホクリクプラスは、学生定着を促すため、企業説明会を開催する。ホクリクプラスは、学生定着を促すため、企業説明会を開催する。

より良き再建を

新田知事は、被災地の再建を支援するため、より良き再建を推進する。新田知事は、被災地の再建を支援するため、より良き再建を推進する。

名水ポークバーガー完成

滑川高商業科の生徒は、黒部市の名水「KOKO」の味を味わうため、名水ポークバーガーを開発した。滑川高商業科の生徒は、黒部市の名水「KOKO」の味を味わうため、名水ポークバーガーを開発した。

滑川高商業科が開発

道の駅KOKOくるべ
きょうから限定販売

滑川高商業科の生徒は、黒部市の名水「KOKO」の味を味わうため、名水ポークバーガーを開発した。滑川高商業科の生徒は、黒部市の名水「KOKO」の味を味わうため、名水ポークバーガーを開発した。

食や温泉 魅力PR

北陸デスティネーションキャンペーン

加賀で観光企画開始イベント



滑川市のブースで名産品を購入する来場者。5日、石川県加賀市

「JRグループと富山、石川、福井3県による大型観光企画「北陸デスティネーションキャンペーン」のオープニングイベントが5日、石川県加賀市のJR加賀温泉駅前広場であり、3県の関係者が食や温泉といった地元の魅力PRした。

イベントでは、元日の地震や9月の豪雨の被災地、石川県輪島市のグループが伝統芸能「御陣乗太鼓」を披露。JR西日本金沢支社の石原利信支社長は「キャンペーンが復興の後押しになるよう努力したい」とあいさつした。

また石原氏は、3月に北陸新幹線金沢～敦賀（福井県敦賀市）間が延伸開業したことも触れ、「3県が1時間で行ける、いろいろな楽しみ方ができるようになった」ともアピールした。



イベント会場に並んだ富山のブース





特産白ネギ使いバーガー

桜井高生開発

味・見た目 工夫重ね

黒部市の桜井高校の生徒が、市の特産品・白ネギを使ったバーガーを考案した。本年度中に、同市の道の駅KOKOKOくろべで販売する。7日は同校でメニュー選びに向けた審査会があり、関係者が味を確かめた。
(吉崎美喜)

KOKOくろべで販売へ



自分たちで考案した白ネギバーガーを囲む生徒



黒部市や、道の駅内で弁当や加工品を販売する会社「黒部はるか」(小谷武嗣社長)などが、白ネギの魅力を広めようとバーガーの販売を企画。桜井高校にメニュー開発を依頼し、生活環境科食物コースの3年生8人が7月から試作に取り組んだ。生徒や小谷社長から意見を聞き、改良を重ねた。

完成したバーガーは、ネギの肉巻きフライやネギ入りハンバーグ、磯辺揚げなどを挟んだ4種類。白ネギをたっぷり使い、1個につき1本使用したメニューもある。審査会では生徒がバーガーの作り方や特徴を説明した。関係者が食べて、味や見た目、ネギのアピールの強さなどの観点で点数を付けた。小谷社長は「どれも工夫されていておいしい」と講評した。

今後、関係者が点数を踏まえて販売するバーガーを決める。販売時には生徒も店頭に立つ予定。杏掛晴和さんは「みんなで作ってきたバーガーが大人にも評価されてうれしい。販売がだんだんと現実的になってきて、楽しみ」と話した。

石田三日市線バス
KOKOくろべ停車

黒部市公共交通戦
略推進協議会は7
日、市役所で会議を開き、
2025年度からの路線バ

スのルート一部変更を了承した。石田三日市線は、新たに道の駅KOKOくろべや市民交流センター・あおーよに停留所を設ける。24年度内に開く次回の会議で正式に決める。

このほか、昨年から実証運行している宇奈月町の内山、音沢両地区と宇奈月サービスセンターを結ぶバスは、一定の需要があることから「愛本コミュニティタクシー」の路線に組み込んで本格運行する。タクシー車両で月、木曜に走らせる。路線バスの新幹線市街地線は、ショッピングセンター・メルシーにも止まるようにする。

県と関空便計画新興会社

地方創生や観光で協定

県は13日、2026年春に富山空港と関西国際空港を結ぶ空路開設を目指す航空会社ジェイキャリアウエイズ（東京）と、地域活性化や観光振興に関する連

携協定を結んだ。関西圏での富山の魅力発信や富山・関空便就航に向けた周知、国内外からの観光誘客に連携して取り組む。同社は新興企業を集中



協定書を手にする（右から）新田知事、白根、梅本の両代表取締役（県庁）

支援する県のプログラム「T-Star Airport」に選ばれていることから、協力して起業の機運醸成にも取り組む。

県庁で締結式があり、新田八朗知事と同社の白根清司、梅本祐紀の両代表取締役が協定書に署名した。知事は「関係人口や交流人口が増えることを期待している。地方創生にも一緒に取り組みたい」と述べた。

関空と、富山空港や米子空港を結ぶ空路開設を目指す同社によると、資金調達目標額50億円のうち調達したのは6・5億円にとどまっている。うち3億円は県内12企業から得たという。機材調達のめどは立っており、人材確保や、目標としている25年1～3月の国の事業認可に向け、準備を進めている。富山・関空

便は定員76席の小型機を使い1日3往復する。チケットは1万円前後に設定する計画で、搭乗率60%以上で黒字が見込めるといえる。白根、梅本両代表取締役は「協定を結ぶことができた。富山は訪日客からも魅力的な土地で、期待に応えられるよう前へ進める」

などと語った。26年春の就航が実現すれば、北陸新幹線敦賀～新大阪の開業よりも早くなる。新田知事は「新幹線の日も早い全線開業を望むスタンスは変わらないが、利便性が高く手頃な価格の交通手段が増えるのは良いこと」との考えを示した。

中国の工芸ファン高岡に

中国の工芸品愛好家向けのモニターツアーが2、3の両日、高岡市内で行われ、参加者が高岡銅器や漆器の工房見学や市内観光を通じて高岡の歴史文化の魅力に触れた。（花田千恵）



商議所 販路拡大ヘッダー

工房見学「職人の精神に感心」

伝統工芸品の国内市場が縮小する中、需要がある中華圏の富裕層への販路拡大を支援しようと、高岡商工会議所が企画した。観光庁の補助事業に採択され、商議所から委託を受けたジェック経営コンサルタント（富山市）が取り組む。ツアーには50、60代の男女4人が参加。3日に訪れた武蔵川工房（高岡市地子木町）では高岡漆器の「青目塗」の技法が施された置物や器を見て回り、4代目の武蔵川剛嗣さんにデザインの意味や用途を熱心に尋ねた作品を購入する姿もあった。参加者は「職人の芸術に対する精神に感心した。作品も素晴らしいものばかり」と語った。2日は高岡銅器製造や金属加工の工房を参学し、職人交流、国重要伝統的建造物群保存地区の金屋町の通りなども巡った。モニターツアーは来週にも予定している。10月には中国と台湾の旅行会社向けのツアーを実施しており、参加者の声を参考にツアー内容を充実させ、2025年度以降に販売する。

本 新 聞

（第2種郵便物認可）

武蔵川工房で作品を眺める中国からのツアー参加者

SAで姉妹都市PR

滑川高生企画 3市町常設コーナー



滑川高校商業科が提案し、設けられた姉妹都市の紹介コーナー

特産販売ポップ作りも

滑川市の姉妹都市をPRする常設コーナーが6日、滑川市栗山の北陸自動車道有機海苔ファーストエリア（SA）上り側に設けられた。滑川高校同僚が企画した取り組みで、生徒の実習の場として協力を依頼。来年秋には屋外テントで生徒による販売実習を予定している。

（藤本優里）

（藤木 健里）

したが、今年はクルミ園に実が熟れれば、5月〜7月まで実施。25年度以降の実習先を検討する中で、約10年前から生徒が考案した商品販売などを通じて関わりがある有隣庵・S.A.に協力を依頼した。

生徒は企画の提案や並べる商品の選定、3市町をPRするPOP作りを担当。店頭には常設で持ち続ける小諸市のそばや那須塩原市の中華そばの乾麺を並べたほか、インバウンドや関西万博を見据え、英語を交えて3市町の特産品や名所を紹介するネルを飾った。

6日田中雅彦さん（2年）と柳山美璃さん（同）が常設コーナーを訪れた。田中さんは「姉妹都市のPRと滑川川への地域貢献につながる、多くの人の目に留まっていきたい」と話した。同S.A.の緑の草島亮太支配人は「姉妹都市の商品を並べ、滑川川とともに相乗効果で盛り上げたいければいい」と期待した。



姉妹都市の商品販売

滑川高 SAにコーナリ

滑川商売科は6日、滑川市栗山の北陸自動車道で有機농産品フェアとして市の姉妹都市の商品販売コーナーを設置し、地域貢献プロジェクトの一環で、来年秋ごろにはAで販売実習に取り組む。

長野県小諸市などのソバ

い」と話した。



富山福祉短大や富山情報ビジネス専門学校が集まるキャンパス。テニスコート（赤枠）に大学用の新校舎を建設する——創水南三ヶ・小杉

射水に「高志大学」新設

浦山学園 28年春目指す

富山福祉短大などを運営する学校法人涌山学園（涌山哲郎理事長）は10日、射水市内に四年制大学「西志

大學(免狀)を設けず、
博士を授け、経緯修業
字部を設け、藝藝位は6
人を充て、同字三ヶ小抄
の同知大ヤンバに新
校舎を整備する。2006
年10月に、総合学術(大
学)開設を申請し、28年4月の
開学を目指す。

【開学記事28面】
新たな大学は、地味にお
ける経済活性化を主体に
創造的経路で主体た財
政」を掲げ、職人型人
力を育て、職大にいて
は、新大設立後に、高
大短期大と都立とで構
成。学長は日本経済研
究所主幹部長、養老小
氏60が就任す。

常川市のNANAクラ
ブザラホ、入館生と委員
会に託し、理事は、大学
に託し、理事は、大学

進學に伴う出に歯止め現状を挙げ、る大学を作た。

設立に必要円を見込む。円は浦山学る3個円はる。と納税ことを自指

知事「心から歓迎」

前山学園が四年制大学の設立を目指すことを受け、新田八朗知事は10日、「心から歓迎したい」とのコメントを出した。人づくりは未来に向けた重要な投資であり、高等教育機関は県の活力を支え、発展の礎となる重要な場所であるとした。

進學に伴う
出に歯止め
現状を挙げ
る大学を作
た。

若者の外流がわからな
い。受け皿とな
らねば、と述べ
る。このついで
に、要員賃金は14億
円、園が出し、残
りの企業販、
で確保する
と、

同日、県内の経済界は、
どを中心とした設立後援
会が充満し、議長代表
に中尾隆雄、富山経済同
友会会長が就いた。設立
に向け、資金面などで力
を、

県内で四年制大学が新設
されれば、県立大と三山
県大が開学した1980年
以来となる。

Age Group	Education Level	Percentage of Respondents
18-29	High School	~45%
	College	~55%
	Graduate	~65%
30-49	High School	~55%
	College	~65%
	Graduate	~75%
50-69	High School	~65%
	College	~75%
	Graduate	~85%
70+	High School	~75%
	College	~85%
	Graduate	~95%



高志大学

普通の若者受け皿に

學長予定藻谷氏 県内進学 意義強調

浦山学園が設立を目指す「高志大学（仮称）」は、若者の県外流出への危機感を背景に、地元経済界と連携して実用的な職業教育に力を入れる方針だ。10日の会見では、学長に就任予定の廣谷浩介氏が「特

色を突出した大学を作っても、地元の、普通の若者が入れず意味がない。普通の若者が限内で進学することこそが「大事」と再論を展開した。

【本記一面】

北陸3県では最も低い。湖谷氏は、県内の大学の定員が少ないことを原因に挙げ、国公立大に加えて多く

若者流出

[illegible]

開学後は大学に所属
業いていく」と通達
認る。

財水商工会協会の
樹会では、財水界が
く、即全体の人口適
止となる」と期待を
県中小企業団体生
潮宏二会長は、人財
黒曜となっていると
生の就職先のつとを
地元企業を通じて
ば」と話した。

の改訂版は、ただでな
し、出版の際に、
寄せた
大会の廣
が確保が
「こころ」
からえれ

「氷見のたまもの」人気



氷見市の特産品や体験商品を集めたギフト「氷見のたまもの」を販売するフェア＝富山駅

富山駅でフェア 特産品魅力紹介

氷見市の特産品や体験商品を集めたギフト「氷見のたまもの」を販売するフェアが13日、富山駅南北自由通路で始まり、大勢の人たちが氷見ならではの品物を買求めた。14日まで。

富山もよう「氷見のたまもの」プロジェクトと題し、能登半島地震で大きな被害を受けた氷見の魅力発信や事業者の商品の販路拡大を目指す。

ギフトは同市の物産・観光18事業者と北日本新聞社が開発。氷見いわしアヒーで販売する。

ショなど4〜7品を詰め合わせたギフトボックス2種類と、氷見での体験が楽しめるギフトカードを用意した。いずれも「富山もよう」が描かれた箱に入れて販売する。観光で県内を訪れた東京都町田市の島村透さん(26)は「魅力的な商品ばかりでおいしそう」と声を弾ませた。

来年1月18、19日に大阪府で、同25、26日にはイオンモール高岡の地場産品店「T・O・C・U・L(ティ・オークル)」で販売する。

県民

2024年(令和6年)12月27日 金曜日

地域ニュース

16



完成した「大根役者カレー」をPRする生徒



開発には山形県のイタリ
ア料理店でオーナーシェフ
を務める奥田政行さんが協
力。5月に試食会を開き、
一緒に調理をしながら味を
調整した。

新川高校のコミュニ
ニティビジネス部の
1〜3年生26人が、魚津市
の特産品の新川だいいこんを
使ったレトルトの乗替カレー
を開発し、26日に同市吉
島の同校で完成披露会を開
いた。商品は「大根役者カ
レー」と銘打ち、同日から
市内の土産店などで販売を
始めた。

新川高校生開発 「食感楽しんで」

新川だいいこんカレー完成

完成したカレーはさらさらのルーが特徴でシナモン、チンピ、八角を使用。地元食材をPRしようと、1センチ角に切った乾燥させた新川だいいこんを加えた。スパイシーで食べやすい味に仕上げた。

たマップをデザインした。部長の西島琉さん(2年)は「素晴らしいものができた。新川だいいこんの食感を楽しめながら味わってほしい」と話した。

価格は300円。あいの風とやま鉄道魚津駅構内の「ミラマルシェ」や餅店源七、学校や各種イベントでも販売する。



富山のすしで食の魅力を伝える関係者
＝大阪市内(県提供)

富山のすし 大阪でPR 県の観光物産展始まる

県の観光物産展は8日、大阪市の阪急つめだ本店で始まった。県内のすし職人が握ったブリ、ベニズワイガニ、ノドグロの3種盛り合わせやまですしが並び、来店者に富山の食の魅力アピールした。

富岩運河環水公園や黒部峡谷を紹介する写真パネルが掲示された。大阪駅近くの北陸三県情報発信拠点「HOKURIKU+」(ホクリクプラス)の来場も呼び掛けた。物産展は14日まで。

2025年1月26日(日)北日本新聞

「氷見のたまもの」ずらり 高岡でフェア

特産・体験商品を販売

氷見市の特産品や体験商品を集めたギフト「氷見のたまもの」を販売するフェアが26日、高岡市下伏間江のイオンモール高岡のセントラルコートで始まった。家族連れらが氷見の魅力や特色に触れ、商品を買求めた。26日まで、能登半島地震からの復興に向け、氷見市の特産・観光18事業者と北日本新聞社が、氷見産のサバを使った「さば梅煮缶」など4、7品を詰め合わせた種類のギフトボックスと、市内での体験を葉



ギフト「氷見のたまもの」や氷見の特産品が並びにぎわうフェアイオンモール高岡

2025年1月30日(木)北日本新聞

5

(県内 政治)

2025年(令和7年)1月30日

木曜日

ホビ

日

開業半年来店100万人

大阪のホクリクプラス

県 万博生かし誘客を加速

北陸3県が連携して魅力を発信する大阪市内のアンテナショップ「HOKURIKU+」(ホクリクプラス)の来店者が28日、開業から半年で100万人を超えた。4月の大阪・関西万博

北陸3県が連携して魅力を発信する大阪市内のアンテナショップ「HOKURIKU+」(ホクリクプラス)の来店者が28日、開業から半年で100万人を超えた。4月の大阪・関西万博

北陸3県が連携して魅力を発信する大阪市内のアンテナショップ「HOKURIKU+」(ホクリクプラス)の来店者が28日、開業から半年で100万人を超えた。4月の大阪・関西万博



開業初日に多くの来場者でにぎわう「HOKURIKU+」
—2024年7月31日、大阪市

2025年2月5日(水)北日本新聞

グリーンパーク吉峰 温泉部門

ジェックに事業・株式譲渡

民間ノウハウで再生へ



株式会社たてやまが指定管理者の「ゆへランド」(左)と「よしみなハイツ」(右)＝立山町

立山町の第三セクターで、グリーンパーク吉峰の温泉部門を担っている「株式会社たてやま」は4日、臨時株主総会を開き、ジェック経営コンサルタンツ(富山市湊入船町)に、事業と全株式を譲渡すること

を決めた。設備の大規模修繕に伴い長期の休業が必要となるなど厳しい経営が続くことから、民間のノウハウを活用して再生を図る。「たてやまはグリーンパーク吉峰の中核施設となっ

2025年2月16日(日)北日本新聞

氷見の観光 大阪でPR

大阪でPR

「復興・氷見市観光プロモーション」が15日、大阪駅西口のKITTE大阪で行われた「写真。16日まで、能登半島地震からの復興に向け「がんばろう北陸!」がテーマの氷見市元気の氷見の食と魅力をお届けします」と題して氷見市などが企画。観光宣伝や特産物の販売などを通じて観光需要の取り込みを目指した。

春の観光シーズンに向け市内観光名所のパネル展示や特産品の販売などを実施。魚の干物などが人気を集めた。「氷見のたまものギフトセット」などが当たる抽選会も行われた。



2025年2月17日(月)北日本新聞

ご当地バーガーに白ネギ

黒部 桜井高生考案 1日限定販売

県東部

黒部市轄の白ネギを使った「ご当地バーガー」が16日、同市の道の駅KOKOROで1日限定販売された。市内の桜井高校の生徒が考案したメニューで、この日は生徒が調理し、店頭で魅力をPRした。

(山崎美香)



道の駅KOKOROあべで、黒部市立桜井高校の生徒が「ご当地バーガー」を調理する様子。

80個わずか40分で完売

桜井高校と、KOKOROの「ご当地バーガー」の開発に取り組み、店内で加工品などを販売する。生活環境科のコースの3年生8人が4種類のメニューを考案。11月は審査会を予定し、白ネギのフライ



あすめ

や目玉焼きを挟んだ「黒部ギョウザバーガー」が採用された。この日は生徒6人が店内でフライや目玉焼きを調理し、バーガー80個を作った。1個480円で、「ご当地バーガー」売ってまず「ご当地バーガー」と呼ばれると、40分ほどで完売した。

黒部市立桜井高校の生徒が「ご当地バーガー」を調理する様子。

2025年2月28日(金)岐阜新聞

低温熟成みそ、高根の魅力

温泉宿で手造り、野麦峠へ

本紙ひだ高山総局記者体験

高山市青根町と長野の県境、標高1672mの野麦峠でみそを熟成させる。同町上ヶ洞の温泉宿「温泉七峰館」で行われている。「ここに住んだらみそを食べたら、市販のみそは食べられない」と絶賛する声もあり、高根の魅力を伝えるべく本紙記者も体験に参加した。

(市原萌子)

「大豆の香りで心もほかほか」

柔らかくなるまで煮続けた大豆一同



同館でのみそ作り体験は寒気な気候を生かして交配人口を増やそうと、2016年に始まった。標高約1672mの同館で仕込んだみそは、5月11日まで、夏場でも20度ほどまでしか気温が上がりません。野麦峠のお助け小籠に運ばれ、低温でゆっくりと熟成させる。

みそ作りには1週間かかる。1日目には、数日水に漬けてふやかした飛騨産の大豆約2kgに、あぐを振りながらひたすら煮る。他の参加者も黙って鍋に向かい、大豆の香りが部屋に漂い、心もほかほかに。このみそ作り体験を通じて、大豆の魅力を伝える。大豆の香りが部屋に漂い、心もほかほかに。このみそ作り体験を通じて、大豆の魅力を伝える。

耳たぐらに染みこみ、大豆の香りが部屋に漂い、心もほかほかに。このみそ作り体験を通じて、大豆の魅力を伝える。

大豆の香りが部屋に漂い、心もほかほかに。このみそ作り体験を通じて、大豆の魅力を伝える。

2025年3月5日(水)北日本新聞

企業のDX推進内容や成果報告。経済産業省の「地域企業協働プログラム」の報告会が3日、富山市湊入船町のKIN入船別荘で開かれた。受講生が北陸の企業で取り組んだDX推進の内容や成果を発表した。

企業協働プログラムは実践的な学びの場として企画し、受講生が協力企業8社で在職の見学、人事データ活用、SNSマーケティングなどに取り組んだ。

受講生が北陸の企業で取り組んだDX推進の内容や成果を発表した。受講生が北陸の企業で取り組んだDX推進の内容や成果を発表した。



DX推進事例を発表する。DX推進事例を発表する。DX推進事例を発表する。

2025年3月9日(日)岐阜新聞

4言語操り おもてなし

高山市の中心市街地から車で約1時間の場所にある同市高根町の温泉宿・塩沢温泉七峰館で勤務する。優れた語学力で、外国人宿泊客の接客などで活躍し、七峰館を支える。

カンボジア出身。姉の影響で日本語を学ぶことに興味を持ち、王立フロンセン大学の外国語学部で日本語を学んだ。同館を運営する「ジェック経営コンサルティング」(富山市)がカンボジアにも事業を展開しており、現地法人の店でアルバイトしていた縁で来日し、同館で働くことになった。

母国語であるクメール語のほか、日本語、英語、中国語を話すことができる。七峰館では料理を並べたり、部屋を清掃したり、事務作業で機不可失をサインしたりするなど、幅広く業務に当たる。

高根町について「山に囲まれているけれど安全な町。周りの人が優しくしてくれているので、安心できる」と顔をほころばせる。「日本語での接客は敬語が難しく、緊張することもあるが、家族を思ふと一生懸命頑張ることが出来る」と思いをはせる。

カンボジア出身の塩沢温泉七峰館従業員
オッ・スレイメアスさん(23)＝高山市＝



Sunday 岐阜人

2025年3月17日(月)北日本新聞

水消火器で放水する子どもたち

消防・警察・運輸
はたらく車集合

消火器体験も

黒部

「はたらくるまフェスタ」が16日、黒部市の道の駅KOKOくらべで開かれ、子どもたちが消防や警察などの仕事に親しんだ。

黒部消防署や黒部警察

署、佐川急便、KOKOくらべが協力して開催した。駐車場に救助工作車やパトカー、白バイ、大型トラックなどが並び、親子連れらが運転席に乗りたり写真を撮ったりした。消火器体験コーナーでは、子どもたちが水消火器を使い、的めがけて放水した。心肺蘇生法の講習などもあった。

2025年3月18日(火)北日本新聞

細工かまぼこ知って

黒部
細工かまぼこをPRするイベント「細工かまぼこ美術館」が



道の駅KOKOくらべ 20日PRイベント

20日、黒部市の道の駅KOKOくらべで開かれる。

若い世代に細工かまぼこの技術や魅力を広めようと、黒部市水産加工業協同組合青年部「浦友会」が企画。昨年3月に富山駅で開き、今年は親子連れが多く訪れる道の駅KOKOくらべに会場を変えて開催することにした。

イベントでは県内の製造業者15社がパネル展示でそれぞれの細工かまぼこの実物を紹介する。この他、力士や魚津市イメージキャラクター「ミシタン」などをかたどったかまぼこの販売もある。

浦友会の広野隆一会長(40)は「細工かまぼこは昔から根付いている富山の文化。多くの人に知ってもらいたい」と話している。

イベントは午前9時～午後3時。



高山市上二之町の飛騨高山まちの体験交流館で22日、高山祭の衣装に使われる「飛騨染」を手がける「ゆはら染工」(同市松本町)の体験コーナーがプレオープンした。祭り衣装の試着や染め物体験ができ、4月下旬に本格開業する。

試着できるのは、高山祭で鉦を打ち鳴らす「關懸祭」の衣装をモチーフにした鮮やかな鳳凰や竜を描いたものと、獅子舞の様子を表現し

飛騨高山まちの体験交流館

「ゆはら染工」コーナー



關懸祭の祭り衣装を着てアピールする体験さん＝高山市上二之町で

祭り衣装、染め物触れて

た2種類。本格開業後は、

屋台組の人たちの祭り衣装も増やし、身につけたまま街歩きできるようにする。

染め物体験では、鳳凰や竜といった絵柄のトートバッグ(縦36センチ、横30センチ)や、全長80センチのいぼりにつけられる。体験の1週間前までに事前予約が必要。

5代目社長の地原雅樹さん(58)は「普段祭りに参加できない地元の人にも衣装を身に着けることで、祭りの

KOKOくるべ
売上高400万円増
道の駅KOKOくるべ
(黒部市堀切)の2024年4月～25年2月の売上高は4億8088万円となり、前年同時期を約4千万円上回った。施設の認知度向上が影響したという。24日の市議会観光・都市活性化振興特別委員会が市が報告した。

KOKOくるべは22年4月にオープンした。24年度の1日当たり売上高は、前年度より13万円多い144万円となっている。遊具を目当てに遊びに来る家族

連れが多い中、土産品や農林水産物の売り上げが伸びており、市は買い物客を目的に訪れる人が増えたとみている。

24年4月～25年2月の1日当たり来場者数は2375人で、前年をやや下回っている。

ゆはら染工は3月末まで、本格開業にむけた資金をクラウドファンディングサイトCAMPFIREの「QRコード」で募っている。問い合わせは0577(3)22113(村瀬美空)。

トロッコ来月20日から

黒部峡谷鉄道 短距離でスタート

黒部峡谷鉄道(黒部市)は24日、今年のトロッコ電車の営業運転スケジュールを発表した。積雪が多いため、例年よりも短い運行距離でスタート。4月20日に宇奈月・柳橋間の2・1キロで始め、5月3日に笹平7・1キロまで延ばし、同10日に猫又(11・8キロ)まで延長する。

能登半島地震で被災した橋の修復などに時間を要しているため、昨年と同様に

途中の猫又までの区間運行となる。

例年は宇奈月・笹平間で営業運転を始めており、笹平より手前の柳橋で止まるのは初めて。柳橋は工事関係者用の駅で、乗客を降ろさずに折り返す。

笹平、猫又の両駅では乗客が降りて20分ほど休憩できる。猫又では昨年と同様、駅周辺に展望台やフォトスポットを設け、景色を眺めたり写真を撮ったりできる

ようにする。

大人料金は、いずれも宇奈月からの往復で柳橋が700円、笹平が1600円、猫又が2800円。営業運転は11月30日まで。

交通遺児支援へ 県善意銀に預託

トナミ運輸労働組

トナミ運輸労働組合は24日、交通遺児支援として集めた18万4541円を、北日本新聞社を通じて県善意銀行に預託した。

業務で道路を利用するところから毎年、組合員らに募

2025年3月28日(金)北日本新聞

○…富山大
芸術文化学部
の学生が27
日、富山市の

中日本高速道路金沢支社富山保全・サービスセンターで、制作した商品パッケージを発表した。写真。

○…2、3年生8人が富山の魅力を発信しようと、有機海サーブスエリア・上



り線(滑川市)で販売中のお菓子を題材に、箱のデザインとPR動画を考案した。

○…発表会では、富山城やチューリップなど地元の名物をイラストにしたパッケージを紹介。夏からの販売を予定し、店頭に並べば売り上げも「加速」しそうだ。

2025年3月31日(金)高山新聞

有磯海SA土産 名所をデザイン

富大芸文学部生お披露目



富大芸術文化学部学生7人が北陸自動車道上り線有磯海サービスエリア(SA)で限定販売する「濃厚シヨコラ」「濃厚フロマージュ」のパッケージをデザインし、27日、富山市の中日本高速道路金沢支社富山保全・サービスセンターでお披露目した。

海王丸や高岡大仏、称名滝をパッケージに盛り込んだ。外箱と内箱の絵を変え、スライドさせて箱を開けると違いを楽しめる。新パッケージは7月ごろから店頭に並ぶ。

岡本知久講師のゼミ生が担当した。三輪美緒さん(3年)は「富山の旅を楽しんでほしい」と話した。

学生が新たにデザインしたパッケージ
富山市の富山保全・サービスセンター

2025年
4月6日(日)
北日本新聞

幻の「八重彼岸」
八木さんが紹介

「アクアパーク」
「黒部市八重彼岸」
などを巡る「アクアパーク」でKOKOさんぽが5日、黒部市の黒部浄化センター・アクアパークで開かれた。参加者約30人が珍しい桜に足を止めて見入った。

八重彼岸は植物学者、牧



野宮太郎が1908年に発表して以来国内で確認されていなかったが、昨秋に同パークと富山市の富岩連河環水公園で生育していることが確認された。

この日は八重彼岸を発見したとよまき守の会の八木秀治さんが発見時の秘話や花の特徴を紹介した。この他、同パークにあるカンヒザクラやシタラザクラなどさまざまな桜の解説もあった。参加者は写真撮影したり、じっくり眺めたりして思い思いに楽しんでいた。

2025年4月22日(火)北日本新聞

峡谷美を満喫

宇奈月

黒部峡谷鉄道(黒部市黒部峡谷口)は20日、宇奈月一柳橋駅間(2.1km)で今年のトロッコ電車の営業運転をスタートさせた。外国人を含む大勢の観光客が雄大な景色を満喫した。

(声田周)

能登半島地震による落石でルートにある鉄橋が損傷したため、昨年からの臨時橋手前の宇奈月駅で折り返し運転している。今年は沿線と川端駅までの宇奈月線が、宇奈月駅の一先にある橋梁との間で運転を始めた。

宇奈月駅ホームでセレ

モニーがあり、地元有志でつくる「桃の会」が「宇奈月温泉小唄」を披露。宇奈月温泉の女将でつくる「かたか金の」延岡寺島代表が勝田貴車掌に花束を贈った。女将らに見送られて約500人の観光客を乗せたトロッコ電車が出発し、新山彦橋などからの眺めを楽しんだ。

5月3日に宇奈月駅、同10日に黒沢駅まで、それぞれ運転区間を延長する。今年の営業は11月30日まで予定している。

同社の中村英史運輸部長が、安全運行を願って村澤

宇奈月温泉の女将らに見送られ、出発する「トロッコ電車」。黒部峡谷鉄道の宇奈月駅。雄大な自然が広がる黒部峡谷を走るトロッコ電車。黒部市の新山彦橋。

2025年5月2日(金)中日新聞

野麦峠山開き 安全を祈願

高根 お助け小屋 きょうから営業

高山市高根町と長野県松本市を結ぶ「野麦峠」の山開き式が1日、同町の観光施設「お助け小屋」であり、高山、松本市両市の関係者約30人が今季の安全を祈願した。

映画「お、野麦峠」にも描かれた標高1672メートルの峠は、明治から昭和初期に飛騨から信州の製糸工場に出稼ぎに行く少女たちが越えた難所で、近年はハイキングコースとして整備され



季通行止めが例年より長く、4月25日に開通した。1日は晴天で、お助け小屋の前には冠雪した乗鞍岳など美しい眺望が広がった。指定管理を請け負うシエック経営コンサルタンツ(富山市)の山瀬孝社長は、峠を巡ってグッズを集める民間の企画の効果で昨年のツーリング客が急増したことを紹介。今年は、付近で溪流釣りを楽しむ魅力もPRする意欲を示し「地域と一緒に盛り上げたい」とあいさつした。お助け小屋は2日から営業を再開する。(北川鈴乃)

[illegible]

2025年4月5日(土)日本農業新聞



板屋さん(岐阜)大臣賞

本紙読者の写真コンテスト

日本農業新聞は4日、第50回読者の写真コンテストの年度賞審査を行い、「私のふるさと」をテーマとした課題写真の部の入賞者を決めた。最優秀の農水大臣賞に板墨光彦さん（岐阜県高山市）の作品「冬に備えて」＝写真が輝いた。

▼2面にその他の受賞者
ニース写真部の最高位、日本農業新聞賞には、平田敬二さん（和歌山県橋本市の）「クヒアカキカミナリ」に被賞拡大を選んだ。

2025年5月25日(日)北日本新聞

アクセサリー・小物
 手作りの100点並ぶ
立山 手作りの作品を集めた「**越に集う**」が
 24日、立山町吉峰野開のゲ
 リンパルよしみねで始ま
 り、アクセサリーや小物約
 千点を展示販売している。
 写真。26日まで。
 県内の手芸作家らでつく
 る「手作りを楽しむ会」が



開催。会員10人が着物を使
 った帽子やバッグ、ピアズ
 で作ったネックレスなどの
 アクセサリー、刺しゅう小
 物などを並べ、来場者を楽
 しませている。北日本新聞
 社後援。

2025年5月31日(土)北日本新聞

地域ワイド

魚津観光まちづくり会社

来月18日設立

6月補正で支援

【魚津】

魚津観光まちづくり株式会社は6月18日に設立する。設立総会、取締役会が同日、魚津商工会議所ビルであり、終了後に記念セミナーを開く。村椿晃魚津市長が30日の定例会見で説明した。

観光まちづくり株式会社は市と魚津商工会議所などの各種産業団体が官民合同で設立する。観光地域づくりと産業・経済振興に取り組む。

取締役は5人体制で、四十万隆一前副市長が社長に就任する予定。観光、まちづくりの両事業を統括するマネジャー社員・スタッフが実務に当たる。

拠点施設は、いかわ信

用金庫魚津駅前支店（同市釈迦堂1丁目）の3階フロアを賃借する。市は2日開会の市議会6月定例会に上程する2025年度一般会計補正予算案に、賃料と施設整備の助成費計1332万円を計上する。

6月補正予算案は1億8256万円（累計217億

7056万円）。対象地区を拡大して実施するオンデマンド交通実用化事業に3958万円、市内初となる看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備助成・支援に4850万円、新型コロナウイルスワクチン接種費用の助成に2556万円などを計上する。